

事業名【担当課】

22.生涯学習推進事業【生涯学習課】

全体に対する意見・提案等

事業目標の達成度が判断できる指標の準備をお願いします。

近隣市の生涯学習窓口との情報交換を積極的に行ってほしい。瀬戸市は歴史があり生涯学習を幅広く運営している。尾張旭市は交流館ふらっと会場で指定管理者が運営している。

課題に対する意見・提案等

成果指標である全講座アンケートの平均満足度は毎年、高い水準で目標値を上回っている。任意団体との協働主催講座では、講座設定の段階からの参加者との内容や開催時間帯等の話し合いが大切である。また、こうした講座を開いている市の他の施設とすみわけつつ任意団体を増やすことも課題と思われる。その際、教育の機関であるという「公民館」の特色を生かし、多様な学びに焦点を置くことも必要である。「ながくて・学び・アイ講座」については育成サークルの立ち上げが成功してきているようだが、立ち上げ以降の支援のあり方についても考えたい。行政頼みの構図から市民の自発的学習へと発展させていくための支援が立ち上げ以降も必要であり、こうした支援を担うリーダーの発掘、リーダーの養成も課題である。

市の基本構想に基づいて、地域での学び合いの機会を提供する事業である。主に退職世代を対象に、市が公民館講座を開講し、市民相互の自主学习サークルの立ち上げを支援する意義は大きい。市が市民主体での運営を期待するのは理解できるが、サークル立ち上げ時の負担は大きいので、運営方法についてのノウハウ集や先行事例集などを市が提供すれば、市にもサークル立ち上げ者にもメリットが大きいと思う。テーマと講師の選定が重要と考えるが、人材バンクを活用したマッチングは有効であり、市が積極的にPRすることも大切であろう。マッチングのコーディネータを置くこともよい方策かと思う。

一方、指標に関しては、「学習機会を提供し、市民が学習意欲を高めたり、生きがいを感じる状態にする」という事業意図が、指標とした「講座アンケートの平均満足度」で測れるかという疑問が残る。満足度が高いことは、指標の一つであるが、出席率や多角的なアンケートの総合得点なども検討してはどうかと考える。

教えたい人も学びたい人も互いのニーズがマッチングできる様に行政が上手にコーディネートしていく必要があるのではないかと。もしその事が難しいのであれば、その道のプロにお願いするのも良いかと。教えたい人、学びたい人共にPRをもう少しわかりやすくインパクトのある工夫をすると良いと思う。